

NSC Database Library

NSCデータベース製品（NSCStandard版）のご案内

お客様が保有する情報システム環境との親和性を確保するため、公益財団法人国土地理協会が提供する全国町字ファイルの11桁住所コード（町丁単位）に準拠した、NSCStandard版データベースのラインナップを紹介します。

推計人口推移予測ランク

— 人口推移とは —

過去の人口推移は既存統計により把握可能です。しかしながら、細分化された地域における社会移動の推定が困難であるため、社会移動に基づく推移予測は容易に実現できないのが実情といえます。従って、通常は過去一定スパンにおける増減率により、その動向を予測することが一般的となっています。

当社では、この人口推移予測について、過去における細分化された地域毎の動向をパターン化（ケース分け）し、各々地域でその後結果としてのどのように推移したかという傾向からみることができないかと考えました。

このデータベースを用いることで、より精度の高い人口推移の予測が可能となります。

— 地域（町丁）ごとの将来の人口推移パターン一覧 —

人口推移予測ランク			
ランク値	今後の人口推移の見通し	増加確率	減少確率
1	増加の可能性がかなり高い	68.0%	32.0%
2	増加の可能性がやや高い	59.4%	40.6%
3	どちらともいえない	51.4%	48.6%
4	減少の可能性がやや高い	32.2%	67.8%
5	減少の可能性がかなり高い	26.8%	73.2%

増加確率が高く予測される順番にランク値を作成したもの

※「増加確率」「減少確率」は2009年～2017データによる値。
※当データベースの提供年次は、2017年です。

推計人口推移予測ランク(詳細解説・価格)

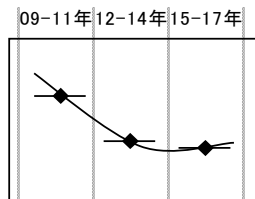
人口推移指標の作成手順

過去9年間の人口データを基に、人口増減を見ていき、その中で将来どのような形で推移していくのかを指標化しました。時系列でムラなくデータを整備している(株)日本統計センターならではの指標です。

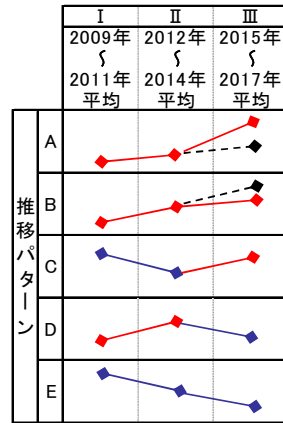
Step1. 3か年平均による

過去推移の平滑化

過去9年間で3年ごとに区分し、各区分の平均値を算出。3つの平均値により、過去の増減をパターン化。(町丁は変動幅が大きいため単年より複数年平均の使用が有効)

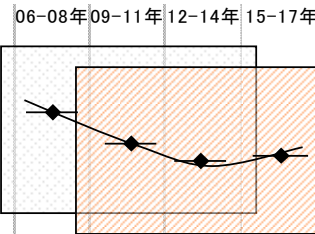


Step2. 推移パターンの作成



- *1. Aは(I II間の増加数)≤(II III間の増加数)
*2. Bは(I II間の増加数)>(II III間の増加数)

Step3. 推移パターン別の次時点の推移パターンの集計



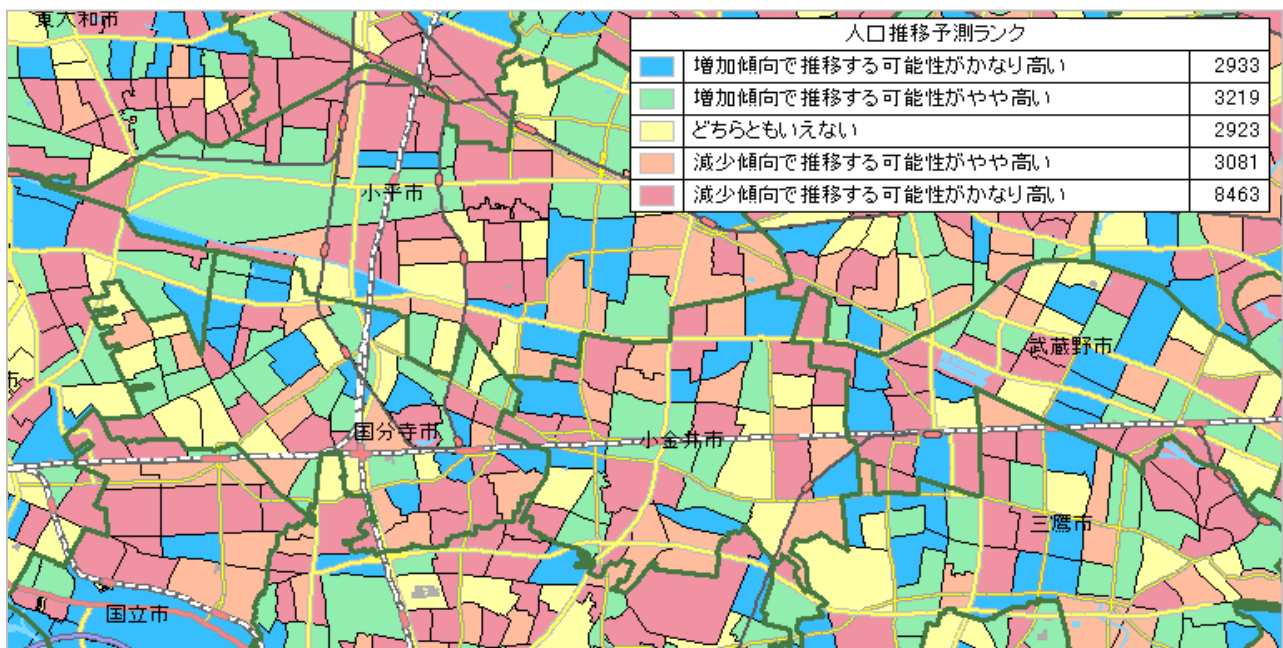
年次を過去に3年間ずらした9年間による推移パターンが、実際にはどう変動したか集計。(パターン別に人口が増加した町丁数と減少した町丁数を算出)

Step4. 推移パターン別の増加確率・減少確率を算出

Step5. 将来(今後3年程度)の推移パターンの判定

過去9年間の推移パターン	増加確率	今後3年程度の推移見込み
・A 連続して増加(増加拡大)	⇒ 68.0	⇒ 1 増加確率がかなり高い
・B 連続して増加(増加縮小)	⇒ 59.4	⇒ 2 増加確率がやや高い
・C 減少後、増加	⇒ 51.4	⇒ 3 どちらともいえない
・D 増加後、減少	⇒ 32.2	⇒ 4 減少確率がやや高い
・E 連続して減少	⇒ 26.8	⇒ 5 減少確率がかなり高い

サンプルマップ



価格

価格は地域・利用クライアント数により変動致します。詳細についてはお問い合わせください。

全国1,000,000円、1都3県 184,000円、東京都 65,000円 (例: 1クライアントの場合)

※上記金額は、消費税別価格です。(提供形態により別途編集費用が必要となります。)

お問い合わせ先

東京・大阪・北九州の各拠点、またはhomepage@nihon-toukei.co.jp

※ご購入後のデータ活用方法についても、お気軽にお問い合わせください。